

令和7年度上半期
女川町上水道事業
業務状況報告書

令和7年11月
女川町上下水道課

令和7年度上半期（令和7年4月1日～令和7年9月30日）の女川町上水道事業の業務状況は、次のとおりです。

1 事業の概況

(1)業務に関する事項

9月30日時点における給水人口、給水量及び有収水量は、次のとおりです。

項目	令和7年度	令和6年度	増減
給水人口（人）	5,750	5,852	△102
給水量（m ³ ）	873,891	779,321	94,570
有収水量（m ³ ）	525,150	669,195	△144,045

※各年度の9月末時点

(2)各種工事に関する事項

令和6年度繰越工事及び令和7年度発注工事については、次のとおりです。

①建設工事

No.	工事名	契約額	工期等
1	県道出島線ほか送水管布設工事	80,850,000円	～R8.3.27

②改良工事

No.	工事名	契約額	工期等
1	旭が丘6号線ほか水道老朽管布設替工事	40,981,600円	完成
2	江島ポンプ場No.2送水ポンプ更新工事	4,950,000円	完成
3	旭が丘8号線ほか水道老朽管布設替工事	31,570,000円	～R8.1.30

2 経理の状況

(1)予算執行状況

①収益的収入及び支出（消費税込み）

収入の主軸である給水収益は、予算額131,649,000円に対し調定額67,047,398円で50.9%の執行率となっています。

（単位：円）

科目	予算現額	執行額	差引額
第1款 水道事業収益	1,445,119,000	950,401,850	494,717,150
第1項 営業収益	131,679,000	67,066,398	64,612,602
第2項 営業外収益	538,573,000	108,468,123	430,104,877
第3項 特別利益	774,867,000	774,867,329	△329

※営業外収益の差引額の主なものは長期前受金戻入で、下期に一括計上する予定です。

当期の営業費用は138,636,419円、営業外費用は5,045,874円であり、過年度決算修正に伴い特別損失は2,333,473,005円となりました。

（単位：円）

科目	予算現額	執行額	差引額
第1款 水道事業費用	3,054,667,000	2,477,155,298	577,511,702
第1項 営業費用	710,173,000	138,636,419	571,536,581
第2項 営業外費用	10,520,000	5,045,874	5,474,126
第3項 予備費	500,000	0	500,000
第4項 特別損失	2,333,474,000	2,333,473,005	995

※営業費用の差引額の主なものは減価償却費で、下期に一括計上する予定です。

②資本的収入及び支出（消費税込み）

収入の主な内容は、令和6年度からの繰越工事に関する消火栓設置負担金です。

（単位：円）

科目	予算現額	執行額	差引額
第1款 資本的収入	245,418,000	0	245,418,000
第1項 他会計負担金	6,600,000	0	6,600,000
第2項 国庫補助金	16,366,000	0	16,366,000
第3項 他会計補助金	2,686,000	0	2,686,000
第4項 企業債	203,400,000	0	203,400,000
第5項 出資金	16,366,000	0	16,366,000

26条予算分

科目	予算現額	執行額	差引額
第1款 資本的収入	101,800,000	1,873,300	99,926,700
第1項 他会計負担金	2,700,000	1,873,000	826,700
第2項 企業債	81,600,000	0	81,600,000
第3項 出資金	17,500,000	0	17,500,000

支出の主な内容は、令和6年度からの繰越工事に関する支出です。

（単位：円）

科目	予算現額	執行額	差引額
第1款 資本的支出	264,834,000	50,047,619	264,834,000
第1項 建設改良費	246,662,000	0	246,662,000
第2項 企業債償還金	18,172,000	9,066,019	9,105,981

26条予算分

科目	予算現額	執行額	差引額
第1款 資本的支出	102,852,000	45,931,600	56,920,400
第1項 建設改良費	102,852,000	45,931,600	56,920,400

(2)損益計算書（上半期）

(単位：円・税抜金額)

1	営業収益			
(1)	給水収益	60,952,180		
(2)	その他の営業収益	<u>19,000</u>	60,971,180	
2	営業費用			
(1)	原水及び浄水費	57,045,574		
(2)	配水及び給水費	32,321,620		
(3)	総係費	<u>8,071,230</u>	<u>97,438,424</u>	
	営業損失			36,467,244
3	営業外収益			
(1)	雑収益	267,425		
(2)	他会計補助金	<u>108,200,000</u>	108,467,425	
4	営業外費用			
(1)	支払利息及び企業債取扱諸費	<u>5,045,874</u>	<u>5,045,874</u>	<u>103,421,551</u>
	経常利益			139,888,795
5	特別利益			
(1)	過年度損益修正益	<u>774,867,329</u>	774,867,329	
6	特別損失			
(1)	特別損失	<u>2,333,473,005</u>	<u>2,333,473,005</u>	<u>△ 1,558,605,676</u>
	当期純損失			1,418,716,881
	前期繰越欠損金			<u>1,154,634,741</u>
	当期未処理欠損金			<u>2,573,351,622</u>

(3)貸借対照表（上半期）

（単位：円）

資 産 の 部

1 固定資産			
（1）有形固定資産			
ア 土地		46,918,915	
イ 建物	826,599,519		
建物減価償却累計額	<u>△ 131,734,934</u>	694,864,585	
ウ 構築物	9,908,311,854		
構築物減価償却累計額	<u>△ 3,031,943,076</u>	6,876,368,778	
エ 機械及び装置	3,550,738,033		
機械及び装置減価償却累計額	<u>△ 1,759,309,677</u>	1,791,428,356	
オ 工具、器具及び備品	924,000		
工具、器具備品減価償却累計額	<u>△ 877,800</u>	46,200	
カ 量水器	10,543,340		
量水器減価償却累計額	<u>△ 2,285,255</u>	8,258,085	
キ 建設仮勘定		4,500,000	
有形固定資産合計		9,422,384,919	
（2）無形固定資産			
ア 電話加入権		49,200	
イ その他無形固定資産		<u>1,840,000</u>	
無形固定資産合計		<u>1,889,200</u>	
固定資産合計			<u>9,424,274,119</u>
2 流動資産			
（1）現金預金		241,268,187	
（2）未収金		3,211,020	
（3）貯蔵品		3,796,670	
（4）その他流動資産		<u>8,780,068</u>	
流動資産合計			<u>257,055,945</u>
資産合計			<u>9,681,330,064</u>

負債の部

3 固定負債			
(1) 企業債		971,445,663	
固定負債合計		<u>971,445,663</u>	971,445,663
4 流動負債			
(1) 企業債		9,105,229	
(2) 他会計借入金		140,000,000	
(3) 未払金		5,170	
(4) 引当金		3,284,691	
(5) その他流動負債		15,123,271	
流動負債合計		<u>15,123,271</u>	167,518,361
5 繰延収益			
(1) 長期前受金		11,052,815,696	
(2) 長期前受金収益化累計額		<u>△ 3,234,327,941</u>	
繰延収益合計			<u>7,818,487,755</u>
負債合計			<u>8,957,451,779</u>

資本の部

6 資本金			
(1) 自己資本金		1,384,031,753	
資本金合計		<u>1,384,031,753</u>	1,384,031,753
7 剰余金			
(1) 資本剰余金			
ア 補助金	239,689,468		
イ 工事負担金	165,809,665		
ウ その他資本剰余金	<u>1,580,633,509</u>		
資本剰余金合計		1,986,132,642	
(2) 欠損金			
ア 当年度未処理欠損金	<u>2,646,286,110</u>		
欠損金合計		2,646,286,110	
剰余金合計			<u>△ 660,153,468</u>
資本合計			<u>723,878,285</u>
負債資本合計			<u>9,681,330,064</u>

(4)前事業年度の決算の状況（上期分のみ）

①総括事項

給水状況としては、有収水量が101万9,321 m^3 となり、前年度と比較して2万3,559 m^3 の減少となりました。また、有収率も6.22ポイント減少し81.26%となりました。そのほか施設の稼働状況を示す一日最大配水量は、前年度と比較して106 m^3 減少の4,582 m^3 、一日平均配水量は、前年度と比較して180 m^3 増加の3,437 m^3 となりました。また、一日最大配水量に対する一日平均配水量の比である負荷率は、5.53ポイント増加し75.01%となりました。減少要因及び増加要因につきましては、令和6年9月から10月にかけて発生した水質基準超過による捨水対応による増加によるものです。

次に、経営面における収益的収支については、収益的収入及び支出（消費税抜）においては、収入の大半を占める給水収益が1億1,876万9,100円と前年度と比較し178万4,359円減少となりました。減少の要因としましては、工事関係者を含む町内宿泊施設利用減少が主な要因です。また、営業外収益については、3億9,777万8,499円となり、前年度と比較し1,366万2,778円の増加となりました。

一方、事業費については、減価償却費3億8,868万3,247円、諸経費1億1,111万3,419円、人件費4,028万4,509円など合計で5億8,636万4,989円となり、前年度と比較し2,312万7,988円の増加となりました。費用増加の主な要因は水質基準超過で、対策として高度処理施設整備を進めておりますが施設整備までの間、費用が増加する見通しとなっています。

このことにより、損益計算において純損失6,967万73,54円を計上し、前年度と比較して1,011万4,819円の純損失が増加する結果となりました。

次に、資本的収入については、企業債2億4,040万円、一般会計負担金961万2,900円、一般会計補助金441万2,733円で合計2億5,442万5,633円となり、前年度より4,145万7815円増加しました。

一方、資本的支出については、女川出島線配水管布設工事や旭が丘地区水道老朽管布設替工事などの建設改良費が2億5,291万7,719円、企業債元金償還金1,414万4,217円となり、前年度と比較し1,311万5,779円減少しました。資本的収支の主な減少要因は、災害復旧工事に係る建設改良費の減少によるものです。

今後も引き続き、安全で安心な水道水の供給を行うために、女川町水道事業基本計画に基づき健全な水道事業の運営に努めてまいります。

②経営指標に関する事項

令和6年度決算における経営成績は、経営の健全性を示す経常収支比率については、水質基準超過に伴う捨水増加により有収水量減少と事業費用増加に伴い前年度と比較し1.33ポイント減の88.12%となり、健全経営の水準とされる100%を下回っています。また、料金水準の妥当性を示す料金回収率については、前年度と比較し5.76ポイント減少し47.11%となり、事業に必要な費用を給水収益で賄っていない状況となっています。

当該年度に更新した管路延長の割合を示す管路更新率は、令和5年度から始めた水道老朽管布設替工事により、令和6年度では1.45%となりましたが、耐用年数を超えた管路の割合である管路経年化率が23.74%となっており、引続き管路の更新を進めていく必要があります。また、今後の管路を含めた更新需要に備え、現在の経営状況を強化し、計画的な施設更新を行ってまいります。

(5)その他事業の経営状況を明らかにするため管理者が必要と認める事項

令和7年7月29日に江島水道設備の通報システムから無送水警報があり、島内配水池に送水がされていない状態であることを確認しました。島内（陸上）では異常が見つからないため、江島までの海底送水管の異常（破損又は閉塞）と判断しました。

現在、応急給水作業を行いながら、仮復旧作業を進めています。この作業に係る費用については、令和7年8月6日に補正予算の専決処分を行っており、関連する収入支出については、上半期業務状況報告書に反映をしております。

また、夏季のトリクロロ酢酸（消毒副産物）の基準値超え対策として実施している排泥量を増加させていることにより、有収率が過年度と比して低下しております。この基準値超え対策としての高度処理施設建設の早期完成に取り組んでいます。